

会 議 録

1 会議名

令和7年度第6回谷浜・桑取区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

【自主的な審議】

- ・自主的審議について（公開）

3 開催日時

令和8年2月10日（火）午後6時30分から午後7時50分

4 開催場所

上越市立谷浜・桑取地区公民館 大会議室

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く。）

- ・委員： 坪田会長、横田副会長、安達（麻）委員、佐藤（幸）委員、田村委員、
中原委員、番場委員（欠席者5名）
- ・事務局： 北部まちづくりセンター 内藤所長、勝島副所長、石崎係長、丸山主任

8 発言の内容

【勝島副所長】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【坪田会長】

- ・挨拶
- ・会議録の確認：佐藤（幸）委員に依頼

議題【自主的な審議】自主的審議事項について、事務局へ説明を求める。

【丸山主任】

- ・資料No.1 「令和7年度第6回谷浜・桑取区地域協議会 自主的審議について」

■様子を見ながら地域協議会として関わっていくもの

ア. 伝統行事、史跡、文化の継承について

イ. 地域で行われている行事について に基づき説明

今までのご意見を活かしながら、来年度は協議会が関わって具体的に何かできないか考えていきたいと思う。

【坪田会長】

今、事務局から説明があったが、行事に参加して良かった点、今後こうすればいいのではないかなど、委員間で共有したいことがあれば発言いただきたい。

【佐藤（幸）委員】

この資料には掲載されていないが、8年前に桑取、中ノ俣地域を題材にした「里山のふところ」というドキュメンタリー作品があり、去年の秋、謙信公武道館や高田世界館で上映会があった。私はすごく感激した。これを見るとわくわくする。「桑取、中ノ俣に行ってみよう」と思うようなドキュメンタリーである。NHK国際放送160か国で放送され、海外でも話題になったようで、私はこれは大変な宝だと思っている。意外と地元の人で見ていない人も多いと思う。これは、NPO法人かみえちご山里ファン倶楽部（以下：かみえちご）が大きく関わっているが、何らかの形で生かして、交流の場で活用できたらと思う。繰り返しになるが、昨年これが再び世に出て、大変評判になっている。是非これを生かしたいと思っている。

【坪田会長】

貴重な意見をいただいた。桑取地区を取材したものだが、谷浜地区も含め地元でPRし、より良い地域づくりの役に立てればいいのではないかな。地元で今後フォーラム的なものを実施する際に放映するといいのかもしれない。何度見てもいい、楽しい。

【中原委員】

日本のみならず、海外で反響があったということがすごい。

【田村委員】

見ると元気が出る。ぜひ多くの人に見てもらいたい。

【坪田会長】

佐藤（幸）委員から、いいご意見をいただいた。見ていない人がいれば見てもらいたい。

ほかに意見がなければ、また地域協議会の委員として地域の行事等に参加していきな

がら、課題点や改善策について話し合っていきたいと思う。

次の項目について、事務局へ説明を求める。

【丸山主任】

・資料No.1 「令和7年度第6回谷浜・桑取区地域協議会 自主的審議について」

■様子を見ながら地域協議会として関わっていくもの

ウ. 学校を取り巻く環境について

エ. 移住・空き家対策について

・資料「上越市創造行政研究所広報誌 J・PRU News No.10」に基づき説明

【坪田会長】

これから創造行政研究所の力をかり「持続可能な地区別まちづくり推進事業（以下：地区まち事業）」に取り組むことで、この谷浜・桑取を少しでも良い方向に導きたい、頑張りたいと思っている。12月に地区まち事業の先行事例として板倉区成果発表会を視察した。視察に参加された委員から、意見や感想をいただきたい。田村委員から願います。

【田村委員】

難しいという印象である。谷浜・桑取区と板倉区では、何が違うのか考えてみたところ、地域の成り立ちが違う。板倉区は中頸城郡板倉町という1つの自治体としてやってきた歴史がある。一方、谷浜・桑取区は谷浜村、桑取村から直江津市になって、それから上越市になった。地区まち事業に先行して取り組んだ板倉区や浦川原区は、1つの行政単位として、自分たちで何とかしなければいけないという気持ちが強く、我々と比べると気持ちが違うのではないか、そんなこと感じた。

【中原委員】

移住された若い方チームの発表があった。移住しても地域に馴染まない人たちが多いが、このチームの発表で、若い人たちが一生懸命になって田んぼをやったり、地域に根を張ろうと頑張っている姿を見て感動した。若い人が、地域をなんとかしたいという意気込みが非常に印象に残った。我々の谷浜・桑取区でもそうならなればと思う。

【横田副会長】

ヤングチームとベテランチームに分かれて、いろいろな分野で、短期、中期の目標に対してどういう筋道で取り組んでいくのか、行動の進め方等、非常に聞いていても分かりやすく、これからやっていく方向をよく示していると思った。指導をもらいながらだ

が、ああいう作り方というか、あの形までいけば、それに沿って行動していただけたということである。谷浜・桑取区ではどういうチーム分けにするのかわからないが、進めていけるのか不安や疑問を感じた。発表に圧倒されたという気持ちである。

【佐藤（幸）委員】

私を感じたことは、板倉区は希望があると思った。板倉に住んでいる人たち全体に向けて発表すれば、みんな希望が見えてくるだろう、うらやましいと思った。

創造行政研究所広報誌に介護分析の記事があり、谷浜・桑取区が取り上げられていた。藤山先生が桑取・谷浜にも注目していると感じた。それほど注目するほどのことがあるのかという思いを持ちながら、先生の話をもっと聞きたいと思った。

【坪田会長】

田村委員が冒頭言われたように、それぞれ合併前は町村単位でやっていたことである。谷浜・桑取区は旧上越市の中で育った地域なので、福祉にしても、なかなか独自の策が打ち出せない。今回の地区まち事業は1つのきっかけづくりであり、藤山先生の知見から助言いただき、より良い方法をポジティブに考えて、私たちも1人1人協力し、少しでも活性化の方向に導いていけばいいのではないかと。桑取・谷浜区地域協議会の皆様の理解と協力で、この地区まち事業を是非成功させたいと思っている。

【内藤所長】

私は3月まで板倉区総合事務所に勤務していた。板倉区は広く6地区に分かれていて、板倉区としてのまとまりを意識する機会を模索していた。地区まち事業で何回か住民ワークショップを行うことで、参加者の皆さんも板倉区での暮らしを持続するため、自分事として考えていけたことが、あのような発表につながったと思う。顔を合わせたワークショップの機会がないと、個人個人が思っているけれども実行に移せない、意見交換をして人がどう考えているのかなど、そういうことをやり取りできる機会がなかったのではないかと。谷浜・桑取区の皆さんも、是非そういう機会だと捉えていただき、皆さんの思いや地域の思い、どんなことが問題なのかということを集約して考えていける時間にしていただければと思う。

【坪田会長】

頑張って地区まち事業を成功させたいと思っているので、皆さんのご協力をお願いしたい。

次に、「オ、くわどり湯ったり村について」に移る。

【丸山主任】

・資料No.2「ゆめ企画名立との意見交換に向けて→意見交換実施日：令和8年3月5日」
に基づき説明

最近皆さんがくわどり湯ったり村（以下、湯ったり村）を利用してみて、何か付け加えたい意見があれば追加する。資料を事前に湯ったり村の経営者である、ゆめ企画名立に渡し、3月5日に地域協議会と意見交換を行いたい。

【坪田会長】

最近利用されて、何か1つでも2つでも気がついた点があれば、発言してほしい。

【田村委員】

12月に飲み会で利用し、料理にとっても満足した。桑取地域で採れたものを味わえば嬉しい。これから谷浜公園へ行くと、ふきのとうがたくさん出る。長野や妙高あたりから、ふきのとうのつぼみを取りに来られる方もいる。谷浜・桑取にこだわった食材として生かせるのではないか。

【中原委員】

老人会の総会、役員会もあるが、湯ったり村の手配をしてある。旅行で志賀高原などへ行くが、お客さんの扱いが上手である。くわどり湯ったり村もお客さんを気持ちよく出迎え、滞在に満足感を与え、お客さんを見送ってほしい。

【番場委員】

私は25年以上湯ったり村に行っていない。小学校の役員をしているときに、役員会で行ったきりで、その後行く用事もなく、お風呂もそれほど好きではなかったので興味もなかったが、今回地域協議会委員になったので、今は興味を持っていろいろ見ている。

暖かくなったら行こうかと思っているが、私たちが行くとすると、泊まることもないのでお昼のメニューがどうなっているのか知りたい。オープン当初は足を運んだが、今の状態が分からないので、足が遠のいている人もいると思う。予約制でもいいから、ランチメニューを地域内に広く知らせてもらえると、話題にもなる。

【横田副会長】

私は地元なので、お風呂や食事には行っているのですが、今の状態に慣れてしまった目で見ているが、前の経営者と比べると、食事は種類が多くなっている。昼のメニューや、大盛りのラーメンなど、いろいろ企画も含めて工夫をしていることは感じる。

個人的には、田村委員も言われたように、地元食材を生かしたものがあればと思う。

山菜は春に採っても漬けておけば一年中食べられるし、採ってきてほしいと言われれば、旬菜交流館あるるん畑にも納品している加工品であれば、湯ったり村に納めることもできる。春になれば山菜の食べ放題や、ふきのとうの取り放題など、そういう企画もいろいろあると面白いと思う。

【安達（麻）委員】

私も番場委員のように、子どもが小さい頃は学校の行事や温泉へ連れて行ったりと利用していたが、十数年は使っていない。

私の父は、以前はうみてらす名立と湯ったり村を毎日ではないが交互に行っていたが、今はうみてらす名立の利用ばかりである。以前は湯ったり村の回数券があったので利用していたが、今はそれがないので行かなくなったのではないかと思う。

私の兄弟が帰省したとき、湯ったり村を泊まりで利用させてもらっていたが、いつからか値段が高い印象で、今は上越妙高駅のホテルを利用している。資料No.2にあるような「帰省客プラン（家事せずのんびり）で地元の活用を促す」という案がもしできるのであれば、地域の人もどんどん利用するのではないかと思った。

【佐藤（幸）委員】

いろいろあるが、一つは、従業員のなり手がいないのか、スタッフが少なく寂しさを感じる。また、看板は更新が必要で、あそこへ行くと自然が豊かで、何か面白そうだなというような看板を考えていただきたいと思う。月に1回新聞にチラシが入るが、うみてらす名立と相乗効果があるような工夫をお願いしたい。例えばチラシの中に宿泊の料金も入れて、昼に食べに来てくださいただけではなくて、そういうアピールの仕方があってもいいのではないかと考えている。泊り客が満足する食事提供をお願いしたい。

【坪田会長】

参考にしつつ、3月5日に向けて、経営者と直接意見交換をして、いい意見も悪い意見もお互い出し合って納得して、共通認識の上でより良い営業をしてもらいたいと思う。

皆さんからいい意見をいただいた。湯ったり村は、この地域のひとつの心の拠り所なので、一人でも多くの方に利用してもらおうような努力をしていただきたいというのが私の意見である。

ほかに意見を求めるがなし。

【丸山主任】

今回は、ゆめ企画名立との意見交換会を3月5日木曜日、午後6時30分から行う。

【坪田会長】

- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

総合政策部 地域政策課 北部まちづくりセンター

TEL : 025-531-1337

E-mail : hokubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。